

## 調 査 の 概 要

### 1. 調査の目的

調査の目的は、看護学生達が看護教育をどのように受け止め、今後どのような進路を選択しようとしているか、その意識を捉え、そこから今後の看護教育のあり方を考えるうえでの基礎資料とする。

### 2. 調査対象

看護基礎教育全課程の最終学年在籍者を母集団とした。それを6つの地域ブロックに分け、次いで各ブロックより調査対象校を無作為抽出し、当該校の最終学年在籍者全員をサンプルとした。サンプルは5,835名（看護基礎教育課程、最終学年在籍者総数の9.6%に相当）。

### 3. 調査方法

日本看護協会の各都道府県支部を通じて各学校の責任者に調査を依頼した。調査協力が得られなかった学校に関しては、その学校と同等規模で同じ課程の学校を支部に選んでもらった。調査協力の承諾が得られた学校へは本会調査研究室より、調査票を各学校宛郵送した。調査票へは本人が記入し、プライバシー保護のため各自封筒に封入してもらった後、学校ごと一括して返送してもらった。

### 4. 調査の時期

1991年11月より1992年1月末まで。

### 5. 回収率

回収票5,257票、有効回収率90.1%。課程別内訳は表の通りである。

課程別調査票配布回収状況

課 程 別	発送部数	回 収 数	有効回収率
4年制大学	204	184	90.2%
看護短期大学	194	165	85.1
3年課程	1,386	1,321	95.3
高等学校衛生看護科	<b>684</b>	637	85.2
准看護婦(士)養成所	<b>1,894</b>	1,614	93.1
進学コース	1,473	1,336	90.7
合 計	5,835	5,257	90.1

注) 進学コースについては、これまでに受けた准看護婦(士)教育に関しての意見を聞くため、他の基礎課程の学生に聞く調査票とは調査項目が一部異なる調査票を用いた。その結果については、「第2部 進学コース通学生の進路選択に関する調査」として別にまとめた。なお、看護短期大学2年課程は進学コースに含まれている。

## 6. 調査の担当

調査票の作成、配布・回収は、日本看護協会調査研究室で行った。調査の集計、執筆は、調査研究室の藤田和夫が担当した。

看護教育に関する調査として、看護学生対象の本調査以外に、看護教員、看護学校の施設についても同時に調査を行った。その際に、看護教育プロジェクトを設置し、調査票の項目、調査結果についての意見を頂いた。プロジェクトは次の通りである。

菊地ナミ子 荏原医師会立看護高等専修学校

杉森みど里 千葉大学看護学部

関根龍子 国立療養所東京病院附属看護学校

野村かず 国立病院医療センター附属看護学校

山口瑞恵子 順天堂医療短期大学